

開催日時：平成17年12月20日（火） 10：00～13：00

場 所：マイドームおおさか 8階 第3研修会議室

出席委員：池淵委員長、高橋委員、久委員、堀野委員、増田委員、山下委員

## 1. 議 題

- (1) 一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について
- (2) 二級河川芦田川水系河川整備計画について
- (3) 二級河川春木川水系河川整備計画について
- (4) その他（大阪府建設事業再評価委員会について）

## 2. 概 要

○一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について

### （まとめ）

神崎川ブロックの安威川ダムにおける利水計画について前回指摘事項を中心に説明した。ダム計画については概ね妥当と考えられるが、次回以降、ダムからの放流のあり方をはじめ治水、環境、利水に関する委員会としての意見を含めた整備計画(案)を作成し審議することとなった。また、欠席委員等に個別に説明し意見を伺い、次回委員会で報告することとなった。

（委 員）ニゴイについて、産卵条件に関する文献の整理をしているが、安威川でのニゴイに関する調査はしてないのか。

（事務局）生息調査は行っているが、産卵形態の調査までは行っていない。

（委 員）不特定利水容量について、雨の降り方と対象期間の変更により必要容量が変わっていること、増加要因と併せて減少要因も見ていることがよく分かるようになった。最終的には放流計画が重要で、今後現状の流況を変化させないという考え方で検討することが必要ではないか。

（委 員）前回委員会の質問に対しては一定の回答をしてもらっている。ただ、もう少し分かりやすくできないか。ニゴイの産卵をうまく機能させるためには、きっかけとなる洪水の発生と、最低の水深の2つの検討が必要で、それを表だって示した方がよいのではないか。他のところも、何を検討したのかと、その説明が何処にあるのかを明確にした方がよい。また、説明資料の語尾は曖昧な表現ではなく、「なります。」など言い切るようにすること。

（委 員）農地面積については、もう少し減っている可能性もあるが、それを行政として見込むのは現実的に不可能であるため、妥当であると思う。

農地にふる降雨は全て有効であるとは限らない。5～80 mm程度の降雨についてはその8割を有効降雨と考えるが、現場によってばらつきがあるため、今回の検討内容で妥当であると思う。

- (委員) 説明資料の「ある程度」など、説得力にける表現は避けるべきではないか。堆砂容量については、上限に近い値で少し大きすぎるようにも感じる。全体に丁寧に調べられた回答であると評価したい。
- (委員) 取水した水は何処へ行くのか。危機管理として寄与するのはどの範囲か。全体として見えない。さらに給排水設備がどの場所で整備されて、どういう利用されるのか。河川管理者の領域ではないかもしれないが、知り得る範囲で教えていただきたい。
- (事務局) 現時点で水道部が考えているのは、取水はダム湖から直接行い、給排水設備については、ダム湖下流で浄水し、2 km 下流にある既設の府営水道管へ合流させ、主に北摂に給水すると聞いている。
- (委員) 堆砂容量について、難しい領域で見積もりが難しいが、流入粒形等の細部まで検討しているのか。地質、回転率などの影響因子の類似したダムを参考に堆砂容量を設定しているのか。
- (事務局) 近傍の類似ダムを参考に設定している。粒度分析等を行って設定しているものでない。
- (委員) 参考にした一庫ダムの堆砂は計画以上に進んでいないのか。
- (事務局) 一庫ダムはほぼ計画どおりと聞いている。計画より堆砂進捗が早いのは主に中部地方のダムである。
- (委員) 下流への濁水等の放流に対しての適切な施設管理や放流計画の検討が重要である。機械的な放流計画とならないようにしていただきたい。
- (委員) 確率比堆砂量の検討について、単回帰で計算しているが、重回帰分析でどの程度の数値になるか計算していただきたい。
- (委員) 河川整備計画(案)を書く時には、ダムの放流計画についても触れるのか確認したい。維持流量と流域面積の関係を示したグラフについて、千歳橋地点とダム地点の維持流量に幅を持たせているが、期別に設定したことやダム容量を決定するクリティカルな値など、明確にするべきではないか。
- (事務局) 維持流量に幅を持たしているのは、期別に設定しているためである。上限の方がクリティカルになっていると思うが、確認して資料を修正する。
- (委員) 治水は降雨が多い場合の検討、利水は渇水状態で供給できるように検討する。クリティカルな状態が最小、最大で反対となっている。降雨の同時生起を考えると、一般に過大に感じるかもしれないが、治水、利水を考えるとき、どちらもクリティカルな状態を検討する必要があり、それを説明する記述を河川整備計画(案)へ表現するようにしていただきたい。
- (委員) ダムからの放流のあり方や治水、利水、環境を含めた河川整備計画(案)を作成していただき、審議したい。また、欠席委員等にも個別に説明し、意見を伺い報告していただきたい。

○二級河川芦田川水系河川整備計画について

(まとめ)

芦田川水系の河川整備計画(素案)について、地元説明会の結果も含めて説明した。事業の実施、整備後の維持管理にあたっては、府、市、地元と協働して進めるべきとの意見を踏まえ、河川整備計画の申請手続きに移ることとなった。

(委員) 二層河川になっている部分の上層と下層にはどのくらいの流量を配分するのか。常時流量がどの程度で、親水性を持った川として本当に成立するのか。二層河川の落とし込み部分のことを整備計画で書かなくてよいのか。

計画対象区間 1.4km の中で上流と下流では整備方針が違うことをはっきりと示した方がいいのではないかと。上流部の階段護岸等を親水性と扱うかどうか、これから十分に考慮した方がいいのではないかと。

(委員) 予算制約から上面整備がシンプルになったのはかえって良かったと思う。

上面整備の際にはワークショップを開催し、住民と一緒にやっていくことを河川整備計画(案)に盛り込んで行く。長瀬川では上面整備を市が、基盤整備を府で整備し、メンテナンスも継続的にできているので、参考としてはどうか。芦田川もこれからの取組が重要である。

(委員) 地元説明会で出席者は自治会の役員のみでの参加ではないか。これからはハザードマップなどリスクを知ってもらわないと災害時の対応が遅れる。地元の方々に川に目をむけていただく仕組みを考えていただきたい。

(事務局) 二層河川の流量配分は、洪水時は上層 15 m<sup>3</sup>/s、下層 30 m<sup>3</sup>/s としており、模型実験で検証し構造を決定している。

平常時はピットを道路下に設け、溜まり水を 0.07 m<sup>3</sup>/s 上層へ流すように考えている。

(委員) 流量が 15 m<sup>3</sup>/s 以上になった時だけ下層に流入するのか。

(事務局) 二層河川の落とし込み部分の高さを調整するので、ちょうど 15 m<sup>3</sup>/s ということではないが、一般的に平常時は全部上層を流れる。

(委員) デザインを考える際には、渇水した場合の景観も考慮して計画していただきたい。

(委員) 下流水門の操作は臨機応変に対応できるような体制になっているのか。

(事務局) 高石市に管理委託をしている。市役所から近い場所にあるので緊急の場合でもすぐに操作できる体制になっている。また、地震時の対応ということで、遠隔操作の整備も考えている。

(委員) 小河川では計画規模を超える降雨も考慮しておく必要が大きい。ハザードマップ等を作成する必要があるのではないかと。

(事務局) 津波ハザードマップについては、高石市は既に作成し公表している。

(委員) 1/100 確率で 24 時間雨量 281.3mm ですが、時間最大雨量はいくらか。

(事務局) 時間最大雨量は 77.6 mm で、今年の 5 月に時間雨量 77.0 mm が観測されている。

(委員) 単純に合理式で考えた場合、時間雨量 80 mmの降雨を処理するのに河口で 100 m<sup>3</sup>/s で対応できるのか。1/100 確率の対応と言っても、24 時間雨量と時間雨量で考えた場合では、かなり開きがあると思う。その点で事業者と住民に理解の差があるのではないか。

(事務局) 周辺の土地利用状況を考えると、貯留施設の必要性があるため、芦田川については合理式ではなく 24 時間雨量を用い準線形貯留関数法で算定している。

(委員) 1/100 確率の洪水に対応するという点を表面に出しすぎるといけないのではないかと。住民への説明は気をつけなければいけない。

(委員) 合理式での流量との比較等、説明力を高めていただきたい。

(委員) 多自然型の護岸で親水空間を作るのに水質が悪いのが気になる。水質は良くなる傾向であるが、BOD10 は高い。下水道普及率待ちではいけない。親水空間に値するものにしておく必要がある。

(事務局) 府下の他の河川で親水整備を行っているところで BOD5 程度であり、芦田川は劣る。下水道の接続率を上げるなど、下水道部局と連携して水質改善に努めていきたい。また、溜池の水や地下水の利用も検討し、今後の整備を進めていきたい。

(高石市) 下水道の整備については、70%の整備率、普及率はこれの約 6 割程度である。流域下水道幹線も整備済みであり、堺市、和泉市と併せて 3 市で進めていきたい。

(委員) 上面整備は地域の方々との連携、協働し、最初の段階からの参加等、これまでの指摘を踏まえて取り組み、河川整備計画(案)を作成して頂きたい。

○二級河川春木川水系河川整備計画について

(まとめ)

春木川水系の河川整備計画(案)について、これまでの委員会での指摘事項や地元説明会の結果も含めて説明した。欠席委員等に個別に説明し意見を伺い、次回委員会で報告することとなった。

(委員) 河床勾配のチェックの結果、低水路の河道計画でよいのか。

(事務局) 低水路の河道計画でよいと考えている。この河川は高水敷がないので、流量による水位の急変はないと考える。

(委員) 平均年最大流量時として、1/2 確率の降雨強度での算定でよいのか。

(事務局) 年最大流量がその都度観測されていないため、一般的に 1/2~1/3 確率で算定している。

(委員) 資料中の「徐々に手を加えながら」という表現と、整備の必要性の部分に表現の差がある。この川は洪水時に余裕があるのか。

(事務局) 現況流下能力としては洪水時に余裕はない。「徐々に」という意味は、洪水時や洪水が引いた後の状況を踏まえ、整備内容の検証もしながら時間をかけて、上面整備をしていくという解釈である。

(委員) 川を安易に捉えさせないような親水空間整備は重要で、危険な状態を目の当たりに出来る場所を作るという意味で評価したい。段階的に徐々にやっていただきたい。陸上植物の対応が大変かもしれない。植物の専門家が検討会にいればよいのではないかと。

(委員) 現況流下能力を見ると危険な部分もある。段階的整備の待てない場所もあると思うので、十分な対応をお願いしたい。

(委員) 川は汚い。きれいにするにしても住民が行うと危険な場合もある。ごみ処理をなんとかする対策はないか。

(事務局) この川は、年に2回ほど一斉清掃が地元主導で行政も一緒になって開催されている。

(委員) 川に近づきやすいのと危険は隣あわせ。安全対策については、単に安全柵を設置するだけでなく景観にも配慮し、少し模索していただきたい。

説明の内容は概ね理解できるが、委員が定数に満たず委員会として成立しないので、報告ということにしたい。

(事務局) 欠席委員等に個別に説明し意見を伺い、次回委員会で報告する。

○その他(大阪府建設事業再評価委員会について)

大阪府建設事業再評価委員会において、安威川ダム建設事業と芦田川河川改修事業についての、意見具申が12月16日にあり、現在、大阪府河川整備委員会で審議中の案件でもあるので、その内容を報告した。